

3 学期終業式あいさつ

話をする前に、2月6日にトルコ南部を震源とする地震で犠牲になられた方のご冥福を祈ると共に、被災されました方にお見舞い申し上げます。また、ロシア軍によるウクライナ侵攻は、1年以上たった今もなお続いています。犠牲になられた方のご冥福を祈ると共に、一刻も早い終戦を心から願っています。

本日は3学期の終業式であり、一年間を振り返る節目の日です。皆さんにとって、この一年はどのような一年でしたか。

今年度も新型コロナウイルス感染症に翻弄（ほんろう）された1年でした。特に1学期は、学年閉鎖や学級閉鎖等の措置をとり、皆さん方にもPCR検査等の協力もしていただきました。そして学校行事の中止、部活動の休止、学習活動の制限等、十分な教育活動が実施できない期間がありました。このような状況下にも関わらず、皆さんは、友人同士、心を一つに協力し、励まし合い、助け合い困難に立ち向かってくれました。そして、落ち着いた学校生活を送ってくれたと思います。

政府の方針で新型コロナウイルス感染症はゴールデンウィーク明けの5月8日から分類が第2類から第5類に引き下げられ、今月13日からはマスクの着用も個人の判断が基本となりました。

それに伴って、学習活動の制限もコロナ以前のような反面、感染対策の対応等は、自らの責任となります。ウィズコロナ社会となることでこれからどのように社会が変化していくのかまだ分からないことが多いです。

卒業式の式辞の中でも話しましたが、これからは、「行き先が不透明で、将来の予測が困難な状態」を意味するVUCA（ブーカ）の時代に突入していきます。

VUCAとは、変動性、不確実性、複雑性、曖昧性という4つのキーワードの英単語の頭文字を取った言葉で、ビジネスや教育の現場でも広く用いられつつあります。

皆さんたちがこれからの不透明な時代を生き抜くために求められる能力は多岐にわたり、それらを身に付けていく必要があります。本校でも、課題研究や地域との協働学習等の実践的な学習を通して、「思考力」や「問題解決力」を養う学習を推進しているところです。

VUCA時代を担う皆さんたちには、変化に対応し、持続可能な社会を実現できる能力が求められます。しかしそれらの能力は、従来の受け身の教育だけで身に付けることはできません。日々の学習では、ICT機器を活用し、主体的で、対話的で、深い学びの実践がより重視されるようになってきます。

皆さんに身につけて行って欲しい能力は、具体的にいうと1つ目は「柔軟で自律的な思考力」です。いろいろな疑問に対して自ら考え、自ら課題を設定し解決できる力が求められます。

2つ目は、「新しい知識の吸収力」です。新しい知識を幅広く吸収する手段として、ICT機器をうまく活用できる力が求められます。

最後に3つ目として、「あらゆる状況への対応力」です。あらゆる状況へ臨機応変に対応できる力が必要です。自分の立場が流動化したときに果敢に決断し、新しい道を切り開いていくことが求められます。

これらの力は社会に出てからもさまざまな経験や学びを通しアップデートしていく必要がありますが、高校生の内にそれらの力を培ってゆく事が大切だと思います。そのためには、授業や部活動、学校行事等において、受け身の姿勢ではなく、主体的に、積極的に何ごとにも取り組むことが大事だと思います。

明日から春休みが始まります。そして4月には、一つずつ学年が上がります。新入生も入学してきます。新しい年度を新たな気持ちでスタートが切れるように準備をして下さい。そしてVUCA時代を乗り切れる力を高校生活で培って下さい。来年度の皆さんの活躍を期待しています。